

みやぎ経済月報

(2015年9月)

平成27年9月28日

目 次	
I 本県の経済概況	1
II 主な指標の動き	3
鉱工業生産指数 7月	3
大口電力使用量 7月	3
新設住宅着工戸数 7月	4
公共工事請負金額 8月	4
百貨店・スーパー販売額 7月	5
乗用車新車登録台数 7月	5
消費者物価指数 7月	6
求人倍率 7月	6
所定外労働時間 6月	7
実質賃金指数 6月	7
雇用保険受給者実人員 7月	7
企業倒産 8月	8
III 宮城県景気動向指数（概要）	9
IV 全国・東北等の景況	10
V 主要経済指標	14
VI 宮城県の経済動向	
平成27年第2四半期（4月～6月期）	36

利用される方に

■この経済月報は、本県における経済活動の主要項目分野に着目し、当該分野の経済指標の数値変動をもとに、本県経済の状況をマクロ的視点から定性的に表現することを目的としています。

■資料は、官公庁、団体、会社等の業務資料および当該機関の刊行した統計資料等によるもので、資料をご提供いただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

■数字の単位未満は、原則として四捨五入しており、合計と内訳の計とが一致しない場合もあります。なお、指標の一部に速報値等を利用しており、翌月に数値変更の場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■統計表の符号は次のとおりです。

- 「▲」.....負数
- 「…」.....数字が得られないもの
- 「－」.....該当数字がないもの

■内容についてのご照会、ご意見は、
宮城県震災復興・企画部統計課
（分析所得班）
〒980-8570
仙台市青葉区本町三丁目8番1号
電話 022-211-2453（直通）
にご連絡下さい。

■本誌の内容は、インターネットでもご覧いただけます。

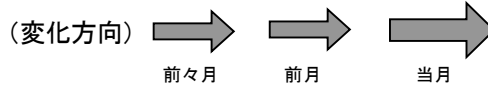








宮城県統計課ホームページ
<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/toukei/>

I 本県の経済概況

7月を中心とした宮城県経済の動向

個人消費や住宅投資など一部に弱い動きがみられるものの、生産は横ばい傾向であり、公共投資や求人倍率は高水準で推移しているなど、基調としては緩やかに回復している。



指 標	動 向	変化方向
生 産	東日本大震災の影響があるなかで、 <u>横ばい傾向の動き</u> となっている。	
住宅投資	高水準であるものの、 <u>減少傾向の動き</u> となっている。	
公共投資	高水準で推移している。	
個人消費	持ち直しの動きとなっているものの、一部に弱い動きがみられる。	
雇 用	改善傾向の動きとなっている。	
企業倒産	小康状態が続いている。	

生 産

鉱工業生産指数（7月）は、前月比が3か月ぶりの低下となった。前年同月比は2か月ぶりの低下となった。大口電力使用量（7月）は、前年同月比が5か月ぶりの増加となった。

住宅投資

新設住宅着工戸数（7月）は、前年同月比が全体では3か月ぶりの増加となった。貸家は3か月ぶりの増加となった。持家は4か月ぶりの減少、分譲住宅は4か月連続の減少となった。

公共投資

公共工事請負金額（8月）は、前年同月比が全体では4か月連続の増加となった。国は3か月ぶりの減少、県は2か月連続の増加、市町村は2か月連続の増加となった。

個人消費

(百貨店・スーパー、自動車、物価)

百貨店・スーパー

百貨店・スーパー販売額（7月（速報値））の全店舗比較は、前年同月比が4か月連続の増加となった。既存店比較は、2か月連続の減少となった。

自 動 車

乗用車新車登録及び届出台数（7月・普通、小型、軽自動車の合計）は、前年同月比が7か月連続の減少となった。軽自動車は7か月連続の減少となった。小型車は12か月連続の減少となった。普通車は、前年同月比が3か月連続の増加となった。

物 価

仙台市消費者物価指数（平成22年=100）（7月）生鮮食品を除く総合指数は、前月比は2か月ぶりの上昇となり、前年同月比は2か月ぶりの上昇となった。総合指数は、前月同水準となり、前年同月比は27か月連続の上昇となった。

雇 用

求人倍率（7月）は、有効は2か月ぶりの上昇、新規は2か月ぶりの上昇となった。所定外労働時間（製造業・30人以上）（6月）は、指数が前年同月比が2か月連続の上昇となった。実質賃金指数（製造業・30人以上）（6月）は、前年同月比が2か月ぶりの上昇となった。雇用保険受給者実人員（7月）は、前年同月比が22か月連続の減少となった。

企業倒産

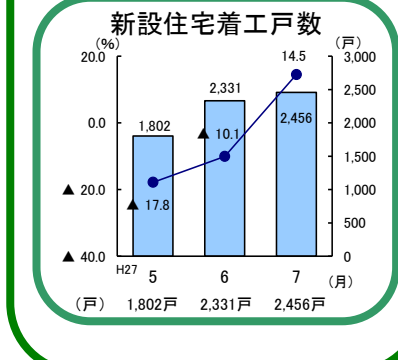
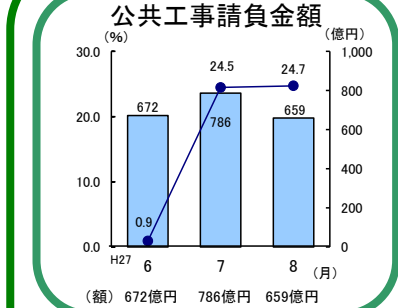
企業倒産（8月）は、件数は前年同月比が3か月ぶりの減少となった。負債総額は、前年同月比が4か月ぶりの減少となった。大型倒産（負債総額10億円以上）は、発生しなかった。

※下線部は前月からの主な変更箇所。

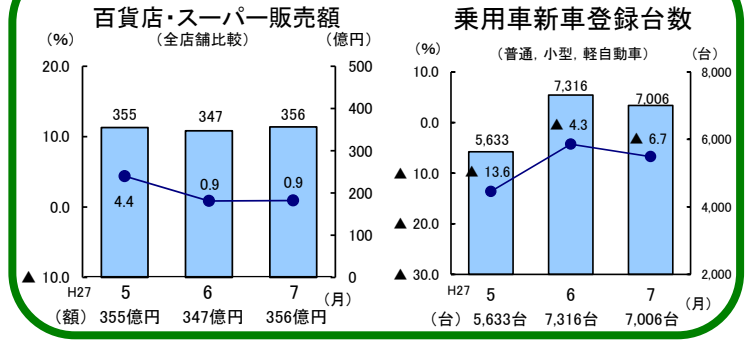
直近3か月の経済動向(前年同月比の動き)

■ は実数値(右目盛)
 ● は前年同月比の推移(左目盛)
 ※1前月比 ※2前月差 ※3指数

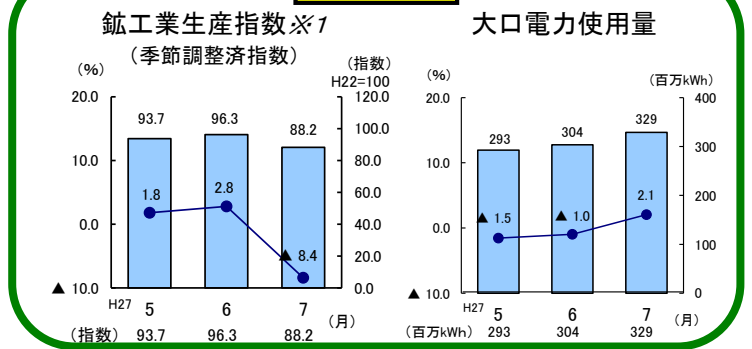
投資



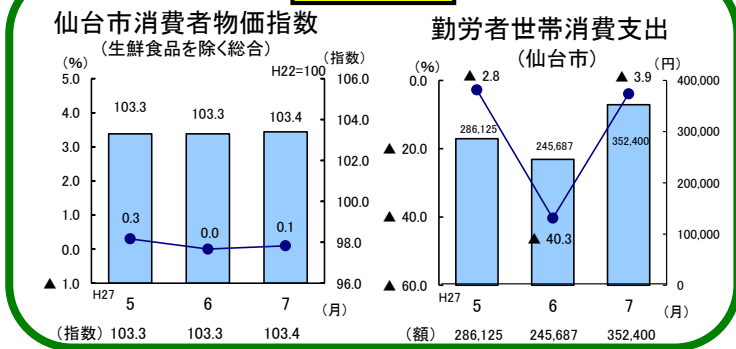
消費



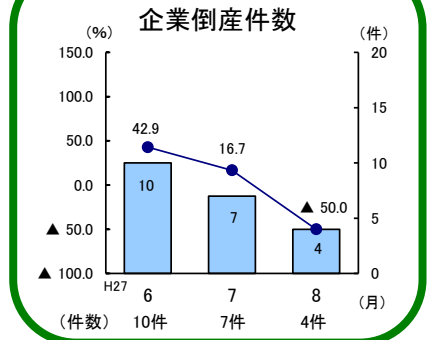
生産



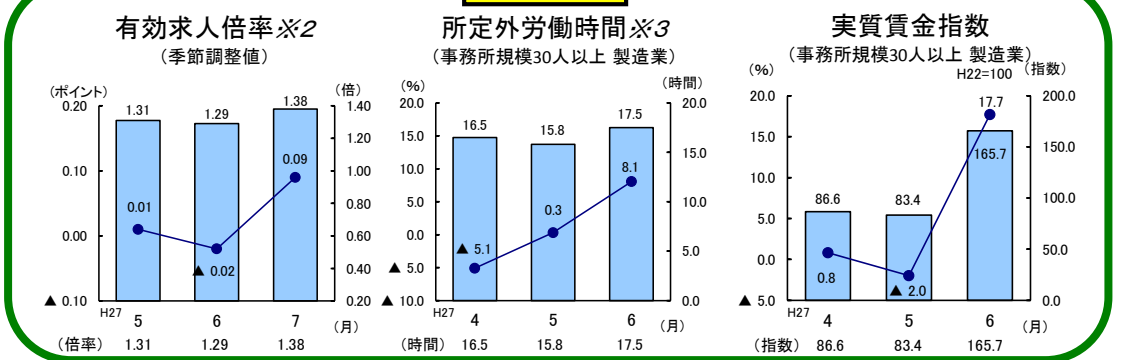
家計



企業倒産



雇用



Ⅱ 主な指標の動き

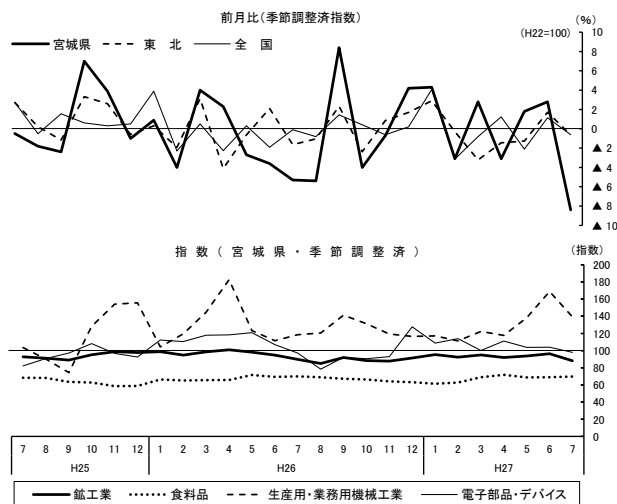
1 生産

(1) 鉱工業生産指数

7月の鉱工業生産指数(季節調整値, 平成22年=100)は88.2(速報値)で, 前月比8.4%の低下となり, 3か月ぶりの低下となった。

業種別にみると, “電気機械工業”, “その他製品工業”など5業種が上昇となった。一方で, “生産用・業務用機械工業”, “非鉄金属工業”など13業種が低下となった。

前年同月比は1.9%の低下となり, 2か月ぶりの低下となった。



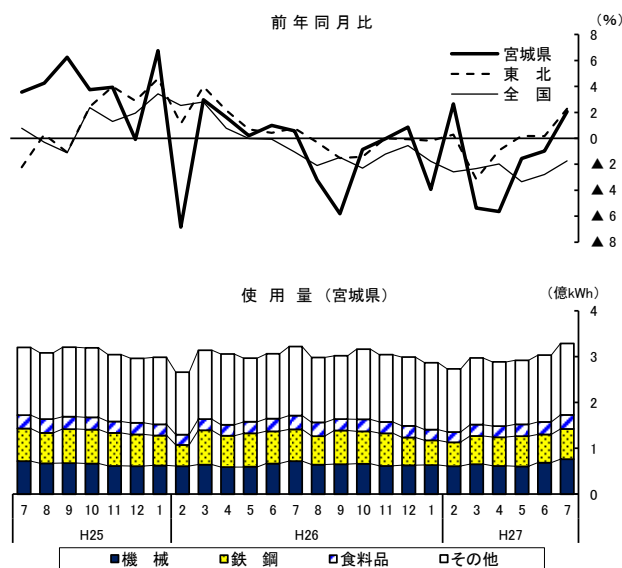
(資料: 県統計課)

→ 数値データは15ページに掲載

(2) 大口電力使用量

7月の大口電力使用量(契約電力500kW以上)は3億290万kWhで, 前年同月比2.1%の増加となり, 5か月ぶりの増加となった。

業種分野ごとに前年同月比をみると, 機械分野は6.3%の増加となり, 8か月連続の上昇となった。食料品分野は1.9%の増加となり, 2か月ぶりの増加となった。鉄鋼分野は1.1%の減少となり, 5か月連続の減少となった。



(資料: 東北電力(株))

→ 数値データは17ページに掲載

2 投 資

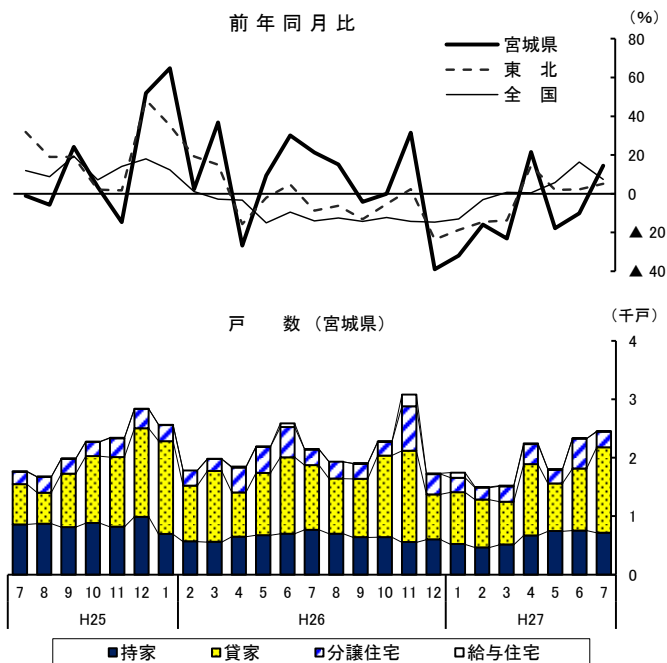
(1) 新設住宅着工戸数

7月の新設住宅着工戸数は2,456戸で、前年同月比14.5%の増加となり、3か月ぶりの増加となった。

利用関係別に前年同月比をみると、貸家は32.2%の増加となり、3か月ぶりの増加となった。持家は6.4%の減少となり、4か月ぶりの減少となった。分譲住宅は1.1%の減少となり、4か月連続の減少となった。分譲住宅のうちマンションは前年同月同値の0戸、一戸建ては4か月連続の減少となった。

(資料:国土交通省)

→ 数値データは18ページに掲載



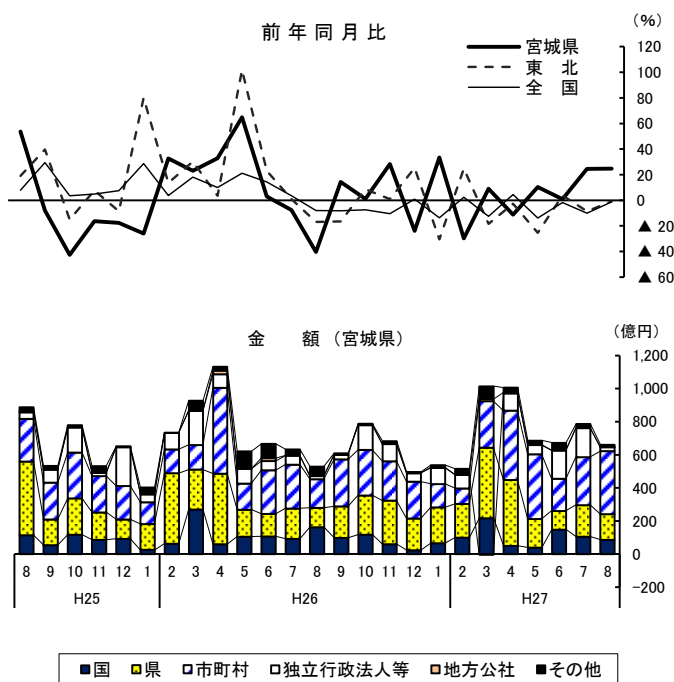
(2) 公共工事請負金額

8月の公共工事請負金額は659億3,500万円で、前年同月比24.7%の増加となり、4か月連続の増加となった。

発注主体別に前年同月比をみると、市町村は119.1%の増加となり、2か月連続の増加となった。県は32.4%の増加となり、2か月連続の増加となった。国は46.9%の減少となり、3か月ぶりの減少となった。

(資料:東日本建設業保証(株))

→ 数値データは20ページに掲載



3 消 費

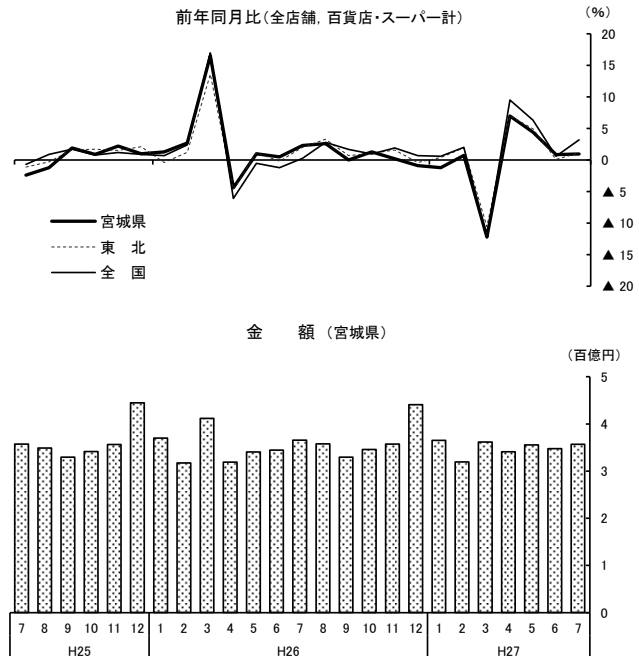
(1) 百貨店・スーパー販売額

7月の百貨店・スーパー販売額(速報値)は356億4,900万円となった。前年同月比で見ると、全店舗比較は、0.9%の増加となり、4か月連続の増加となった。既存店比較で0.3%の減少となり、2か月連続の減少となった。

商品目別(全店舗比較)にみると、家具・家電・家庭用品は8.9%の増加となり、2か月ぶりの増加となった。飲食料品は0.4%の増加となり、4か月連続の増加となった。衣料品は0.6%の増加となり、3か月ぶりの増加となった。

(資料:東北経済産業局)

→ 数値データは21ページに掲載



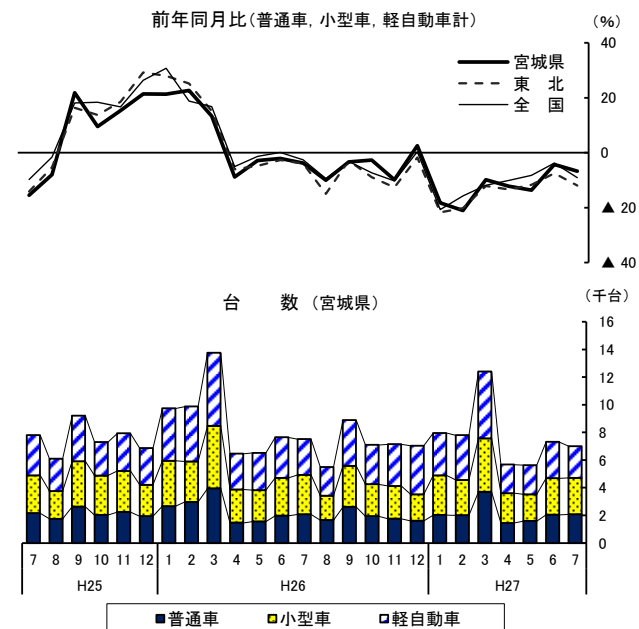
(2) 乗用車新車登録台数

7月の乗用車新車登録及び届出台数(普通乗用車, 小型乗用車, 軽乗用自動車の合計)は7,006台で、前年同月比6.7%の減少となり、7か月連続の減少となった。

車種別に前年同月比をみると、軽自動車は10.9%の減少となり、7か月連続の減少となった。小型車は7.9%の減少となり、12か月連続の減少となった。普通車は0.1%の増加となり、3か月連続の増加となった。

(資料:自動車販売協会連合会宮城県支部, 全国軽自動車協会連合会)

→ 数値データは24ページに掲載



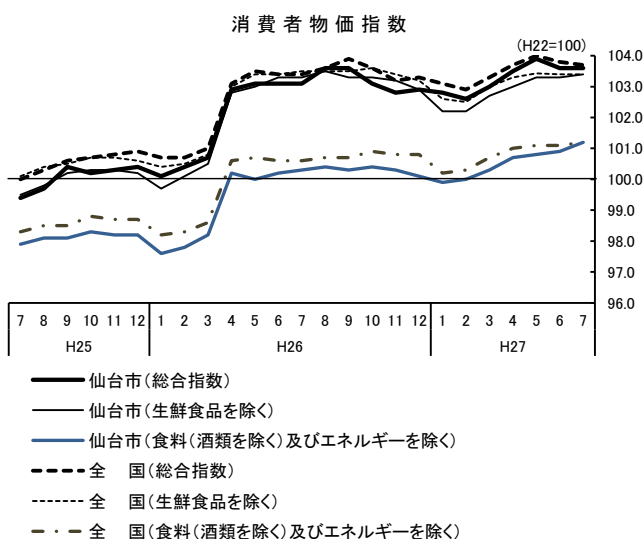
4 物 価

7月の仙台市消費者物価指数のうち生鮮食品を除く総合指数(平成22年=100)は103.4で、前月比0.1%の上昇となり、2か月ぶりの上昇となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数(同)は101.2で、前月比0.3%の上昇となり、6か月連続の上昇となった。総合指数(同)は103.6で、前月同水準となった。

前年同月比でみると、生鮮食品を除く総合指数(同)は0.1%の上昇となり、2か月ぶりの上昇となった。食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数(同)は0.9%の上昇となり、27か月連続の上昇、総合指数(同)は0.4%の上昇となり、27か月連続の上昇となった。

(資料:県統計課)

→ 数値データは33ページに掲載



5 雇 用

(1) 求人倍率

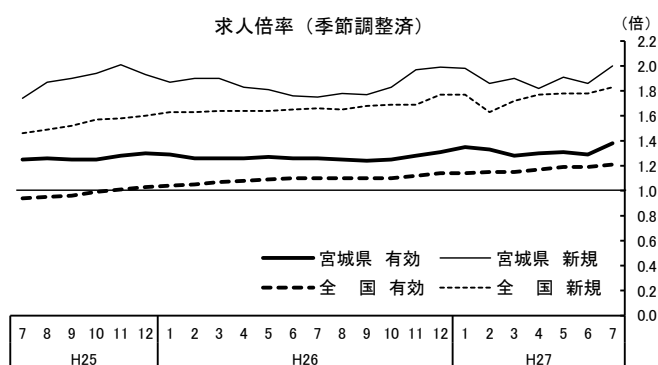
7月の有効求人倍率(季節調整値, 新規学卒者除きパートタイム含む)は1.38倍で、前月を0.09ポイント上回り、2か月ぶりの上昇となった。新規求人倍率(同)は2.00倍で、前月を0.14ポイント上回り、2か月ぶりの上昇となった。

月間有効求人数及び新規求人数(新規学卒者除きパートタイム含む)は、有効は前年同月比4.0%の増加となり、3か月ぶりの増加となった。新規は前年同月比8.4%の増加となり、2か月連続の増加となった。

新規求人数を産業別にみると、“医療、福祉”や“製造業”で増加、“情報通信業”や“運輸業、郵便業”などで減少となった。

(資料:宮城労働局)

→ 数値データは29ページに掲載

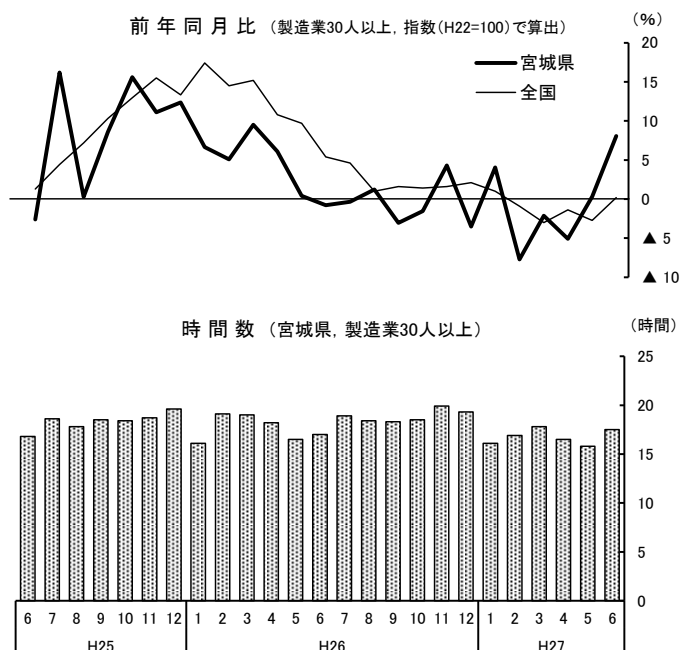


(2) 所定外労働時間

6月の所定外労働時間（製造業，事業所規模30人以上，1人平均月間）は17.5時間で，前年同月比（指数）8.1%の上昇となり，2か月連続の上昇となった。

（資料：県統計課）

→ 数値データは31ページに掲載

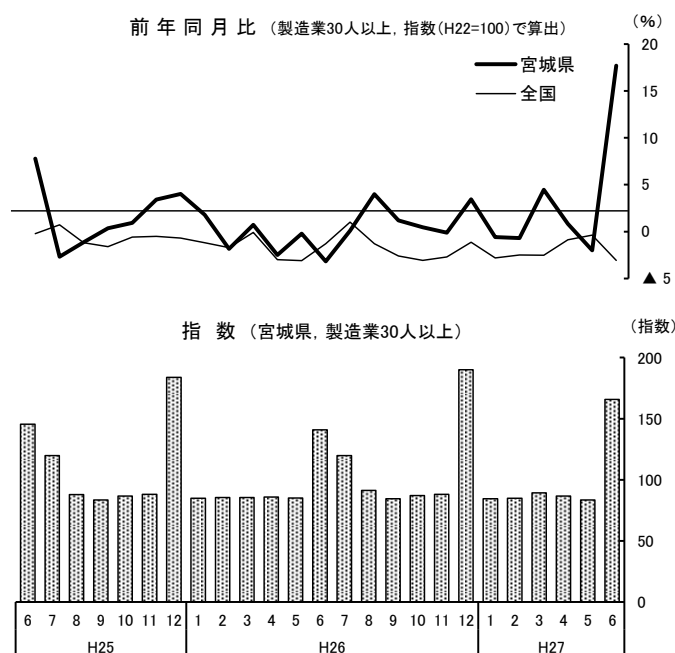


(3) 実質賃金指数

6月の実質賃金指数（平成22年=100，現金給与総額，製造業，事業所規模30人以上）は165.7で，前年同月比17.7%の上昇となり，2か月ぶりの上昇となった。

（資料：県統計課）

→ 数値データは31ページに掲載

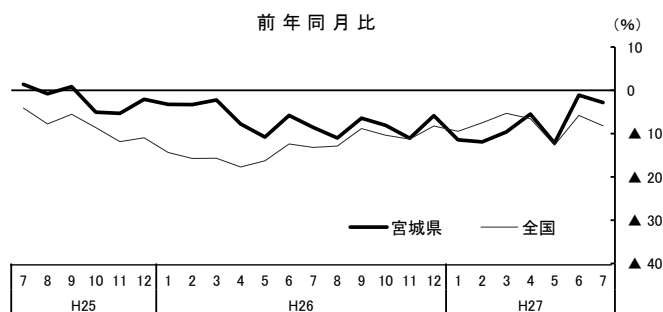


(4) 雇用保険受給者実人員

7月の雇用保険受給者実人員は9,425人で，前年同月比2.8%の減少となり，22か月連続の減少となった。

（資料：宮城労働局）

→ 数値データは31ページに掲載



6 企業倒産

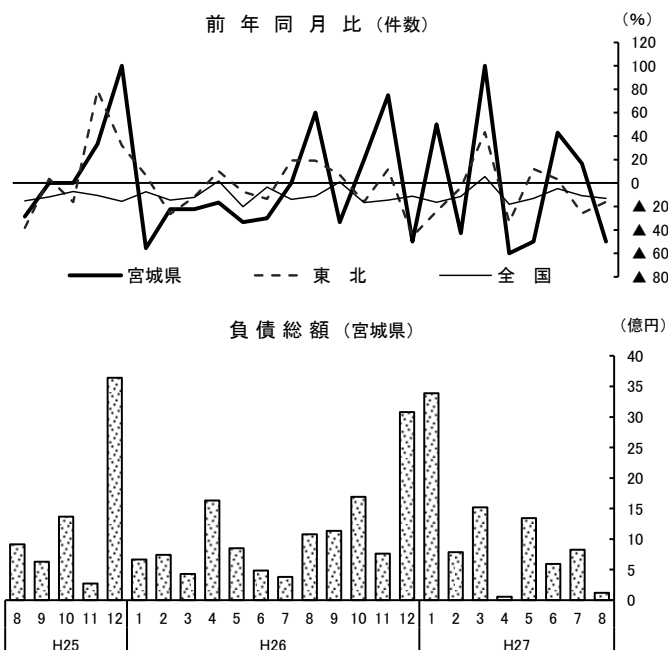
8月の企業倒産(負債総額 1,000 万円以上)は4件で、前年同月比 50.0%の減少となり、3か月ぶりの減少となった。

負債総額は1億 1,800 万円で、前年同月比 89.1%の減少となり、4か月ぶりの減少となった。

大型倒産(負債総額 10 億円以上)は発生しなかった。不況型倒産(販売不振, 売掛金回収困難, 赤字累積)の件数は3件となり、全体に占める構成比は 75.0%となった。

(資料:株東京商工リサーチ)

→ 数値データは 32 ページに掲載



○**指数**：毎月変動する何らかの量や値を、比較の基準となる値に対する比率として表したものを。

(例) りんごの価格の指数を求めてみます。基準年を平成 22 年とします。平成 22 年のりんごの価格指数は 100 となります (H22 = 100)。りんごの平成 22 年の平均価格が 30 円で、今月の価格が 31 円だった場合、今月のりんごの価格の指数は、30 円 = 100 なので、比例計算で以下のとおり 103.3 となります。

$$(\text{りんごの価格指数}) \quad 31 \text{ 円} \div 30 \text{ 円} \times 100 = 103.3$$

○**前月(期)比**：前月(期)からの変化率。

今月(期)の値から前月(期)の値を差し引いて、前月(期)の値で割ったもの。

足元の動き(前月(期)からの変化)を見るための目安となります。

○**前年同月(期)比**：昨年と同じ月(期)からの変化率。

今月(期)の値から昨年と同じ月(期)の値を差し引いて、昨年と同じ月(期)の値で割ったもの。

基調的な動き(変化方向)を見るための目安となります。**季節性**(天候、暦及び社会的慣習等により発生する 1 年を周期とする変動 例：季節による寒暖の差、2 月等の月の日数、賞与)があるデータの場合、前月比で比較するよりも、前年同月比で比較することにより、季節性を除去することができ、変化の方向性が見やすくなります。但し、1 年前の値を基準としますので、震災のように前年に特別な出来事により大きく増減した場合は、大きく変動します。

Ⅲ 宮城県景気動向指数（概要）

1 概況

平成27年7月のC I（H22=100）は、先行指数 112.4，一致指数 129.1，遅行指数 159.6 となった。
 先行指数は前月差で 3.1ポイント下降し，3か月ぶりの下降となった。
 一致指数は前月差で 2.6ポイント上昇し，4か月連続の上昇となった。
 遅行指数は前月差で 7.1ポイント上昇し，2か月ぶりの上昇となった。

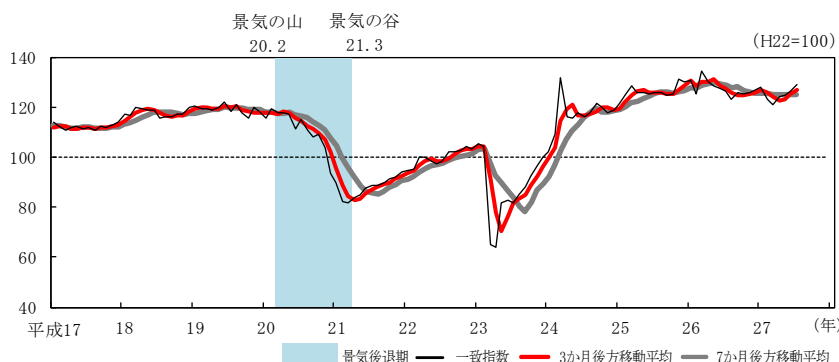
2 景気動向指数（C I）の推移及び個別系列の寄与度

(H22=100)

系列名	平成27年						
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	
C I 先行指数	115.1	114.9	110.8	113.4	115.5	112.4	
前月差（ポイント）	-0.6	-0.2	-4.1	2.6	2.1	-3.1	
3か月後方移動平均	117.6	115.2	113.6	113.0	113.2	113.8	
7か月後方移動平均	119.1	118.6	117.2	116.3	115.4	114.0	
L1 新規求人数(学卒除く，パート)	0.26	-1.27	-0.35	0.08	0.32	0.64	1
L2 投資財生産指数	-0.73	1.57	-2.05	2.49	0.96	-2.17	2
L3 生産財生産指数	-0.94	0.06	0.91	-1.47	-0.80	-1.72	3
L4 日経商品指数(42種)	0.39	-0.93	0.62	0.28	-0.62	-0.97	4
L5 乗用車新車新規登録台数(軽含む)	-0.07	2.22	-4.32	0.72	1.45	-0.16	5
L6 新設住宅着工床面積	0.31	-0.24	0.40	0.18	0.69	0.26	6
L7 全銀貸出残高(前年同月比)	-0.01	-2.06	0.32	-0.30	0.73	0.17	7
L8 中小企業業界景況感(前年同月比)	-0.03	0.36	0.13	0.40	-0.77	0.55	8
一致トレンド成分	0.15	0.18	0.20	0.19	0.22	0.28	
C I 一致指数	123.3	121.1	124.4	125.0	126.5	129.1	
前月差（ポイント）	-4.6	-2.2	3.3	0.6	1.5	2.6	
3か月後方移動平均	126.0	124.1	122.9	123.5	125.3	126.9	
7か月後方移動平均	125.5	125.1	125.0	124.9	125.0	125.3	
C1 所定外労働時間指数(調査産業計)	-1.06	0.31	-0.27	0.41	1.21	0.02	1
C2 有効求人倍率(合計)	-1.03	-1.98	0.12	-0.12	-0.91	3.09	2
C3 実質定期給与指数(製造業)	-0.10	1.10	-2.76	0.57	1.21	0.02	3
C4 鉱工業生産指数	-0.85	0.73	-0.79	0.49	0.73	-3.30	4
C5 大口電力使用量	-1.00	0.60	-0.23	0.72	0.65	1.54	5
C6 百貨店・スーパー販売額(前年同月比)	0.71	-3.71	6.04	-0.80	-0.97	0.03	6
C7 輸入通関実績	-1.26	0.74	1.21	-0.68	-0.45	1.20	7
一致トレンド成分	0.24	0.29	0.32	0.27	0.31	0.39	
C I 遅行指数	189.4	187.4	162.1	169.7	152.5	159.6	
前月差（ポイント）	3.1	-2.0	-25.3	7.6	-17.2	7.1	
3か月後方移動平均	189.0	187.7	179.6	173.1	161.4	160.6	
7か月後方移動平均	189.8	188.6	184.1	181.9	177.0	172.4	
Lg1 離職者数(事業主都合) [逆]	-2.33	2.11	-6.40	3.98	0.21	-1.49	1
Lg2 雇用保険受給者実人員 [逆]	1.35	-1.81	-2.02	1.28	-7.81	1.07	2
Lg3 消費者物価指数(仙台市, 前年同月比)	-3.60	0.27	-14.65	0.53	-2.05	0.50	3
Lg4 勤労者世帯消費支出(仙台市, 前年同月比)	-0.39	-1.13	4.28	-3.44	-5.01	4.83	4
Lg5 営業倉庫保管残高	6.34	-1.00	-1.14	-1.22	-0.54	0.54	5
Lg6 法人事業税調定額	1.44	-0.64	-5.75	6.22	-2.33	1.32	6
一致トレンド成分	0.24	0.29	0.32	0.27	0.31	0.39	

(注) [逆]は逆サイクル系列を表す。
 C1所定外労働時間指数、C3実質定期給与指数とC7輸入通関実績は現時点で算出に含まれていないため、トレンド成分のみを通じた寄与度を表す。

3 景気動向指数（C I）一致指数グラフ



IV 全国・東北等の景況

1 全国の景況

月例経済報告（内閣府） 9月25日 [<http://www.cao.go.jp/>]

景気は、このところ一部に鈍い動きもみられるが、緩やかな回復基調が続いている。

- ・個人消費は、総じてみれば底堅い動きとなっている。
- ・設備投資は、総じて持ち直しの動きがみられる。
- ・輸出は、このところ弱含んでいる。
- ・生産は、このところ横ばいとなっている。
- ・企業収益は、改善している。企業の業況判断は、一部に慎重さがみられるものの、おおむね横ばいとなっている。
- ・雇用情勢は、改善傾向にある。
- ・消費者物価は、緩やかに上昇している。

先行きについては、雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、アメリカの金融政策が正常化に向かうなか、中国を始めとするアジア新興国等の景気が下振れし、我が国の景気が下押しされるリスクがある。こうしたなかで、金融資本市場の変動が長期化した場合の影響に留意する必要がある。

金融経済月報（日本銀行） 9月16日 [<http://www.boj.or.jp/>]

わが国の景気は、輸出・生産面に新興国経済の減速の影響がみられるものの、緩やかな回復を続けている。

海外経済は、新興国が減速しているが、先進国を中心とした緩やかな成長が続いている。輸出や鉱工業生産は、新興国経済の減速の影響などから、このところ横ばい圏内の動きとなっている。一方、国内需要の面では、設備投資は、企業収益が明確な改善を続けるなかで、緩やかな増加基調にある。また、雇用・所得環境の着実な改善を背景に、個人消費は底堅く推移しているほか、住宅投資も持ち直している。この間、公共投資は、高水準ながら緩やかな減少傾向に転じている。

先行きについても、景気は緩やかな回復基調を続けていくとみられる。

2 東北の景況

管内（東北6県）の経済動向（東北経済産業局）9月15日 [<http://www.tohoku.meti.go.jp/>]

全体の動向：緩やかな持ち直し傾向にあるものの、一部に弱い動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産：生産は一部に弱い動きがみられるものの横ばい傾向。
- ・ 個人消費：緩やかな持ち直しの動きがみられる。
- ・ 住宅着工：新設住宅着工戸数は、被災地を中心に復興需要に支えられ増加している。
- ・ 公共投資：公共工事請負金額は、引き続き高水準であるものの、前年を下回った。
- ・ 設備投資：設備投資は、緩やかに持ち直している。
- ・ 雇用：新規求人倍率、有効求人倍率ともに高い水準となっており、改善の動きが続いている。
- ・ 企業倒産：倒産件数は、小康状態が続いている。

経済の動き（日本銀行仙台支店）9月16日 [<http://www3.boj.or.jp/sendai/>]

東北地域の景気は、緩やかに回復している。

最終需要の動向をみると、公共投資は、震災復旧関連工事を主体に、緩やかに増加している。設備投資は、緩やかに増加している。個人消費は、底堅く推移しており、住宅投資は、持家を中心に増加している。生産は、横ばい圏内の動きとなっている。こうした中、雇用・所得環境は、改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、エネルギー価格の下落から、前年を下回った。

地域経済報告—さくらレポート—（日本銀行）7月6日

[<http://www.boj.or.jp/research/brp/rer/index.htm/>]

東北地域の景気は、緩やかに回復している。

最終需要の動向をみると、公共投資は、震災復旧関連工事を主体に、緩やかに増加している。設備投資は、緩やかに増加している。個人消費は、底堅く推移しており、住宅投資は、災害公営住宅の建設等から、高水準で推移している。生産は、横ばい圏内の動きとなっている。こうした中、雇用・所得環境は、改善している。消費者物価（除く生鮮食品）は、エネルギー価格の下落から、前年を下回っている。

3 宮城県の景況

宮城県経済の動き (七十七銀行) 9月25日 [<http://www.77bank.co.jp>]

最近の県内景況をみると、一部に弱い動きがみられるものの、震災復興需要などに伴い経済活動は総じて高水準で推移しており、基調としては緩やかに回復している。

生産は持ち直しに向けた動きとなっている。需要面の動きをみると、住宅投資は震災に伴う建替需要を中心に高めの水準で推移している。公共投資は震災復旧工事などから高水準で推移している。個人消費は一部に弱めの動きがみられるものの、総じて底堅く推移している。一方、雇用情勢は総じて改善しているが、労働需給のミスマッチが残存している。

